



CONTENTS

- 02 国保への確実な公費投入を
会長に田表一夫氏を再任
岩手県国保運営委員協議会「第62回通常総会・研修会」
- 03 引き続き住民の健康づくりを支援
地域づくりによる介護予防を体験学習
第15回岩手県在宅保健活動者連絡協議会「総会・研修会」
- 04 平成28年度高点数レセプトの請求状況
高点数レセプト10年間で倍増
最高額は1ヶ月1,800万円
- 06 保険者努力支援制度と密接に関連
新・国保3%推進運動の充実を目指し
岩手県国保事業充実強化推進協議会「幹事会」

- 07 新国保制度の円滑な実施に向けて
本県の要望事項を検討
国保地区協議会事務局長会議
- 08 30年度に向けた電算処理の準備進む
平成29年度第1回電算処理システム運営協議会
第三者行為介護求償のノウハウを研修
第三者行為求償事務(介護保険担当者)研修会

今月の表紙
「初夏の風物詩」
盛岡市

木々が緑の色を深め、水田にたっぷりと水が張られた6月11日、盛岡手作り村の「チャグチャグ馬コとふれあう催事」取材。
取材当日は多くの家族連れが訪れ、南部曲り家のわらぶき屋根の下、色とりどりの装束をまとった馬コとの記念撮影やふれあいを自由に楽しんでいました。

国保への確実な公費投入を

会長に田表一夫氏を再任

岩手県国保運営委員協議会「第62回通常総会・研修会」

国保運営委員協議会（会長・田表一夫久慈市国保運営協議会長）は5月19日、国保会館で第62回通常総会と研修会を開催した。総会では、国保事業に功績のあった11人が表彰された後、認定事項、議決事項を原案どおり承認。また、任期満了に伴う役員の選任が行われ、田表会長が再任された。任期は31年3月31日まで。その後、研修会が行われ、国保中央会の飯山幸雄常務理事から「国保をめぐる諸情勢について」と題して講演が行われた。



再任された国保運営委員協議会
田表一夫 会長

総会の冒頭、田表会長は市町村国保の財政状況に触れ「27年度は公費拡充による財政基盤の強化が図られたことで、赤字額が243億円減少し、4年ぶりに改善されたが、全国約6割の保

険者では単年度赤字を計上し、構造的な赤字体質は改善されていない状況にある」と述べ「30年度以降はさらに公費が追加投入される予定であり、確実に公費が投入されるよう今後も国の動向を注視し、関係機関との連携も図っていきたい」とあいさつした。

続いて、国保運営協議会会長並びに委員として功績のあった11人に表彰が行われた。（表彰者は下表参照）

表彰後、岩手県健康国保課の藤原寿之総括課長と本会の谷藤裕明理事長（代読・菅原和彦専務理事）が来賓としてあいさつし、国保の健全運営に対する協力に感謝の言葉を述べた上で、新制度への円滑な移行に向け、引き続き協力を要請した。

その後議事が行われ、紫波町の新里哲之国保運営協議会会長を議長に選出。認定事項、議決事項の審議が行われ、いずれも認定、議決した。

- ▼認定事項
▽28年度事業報告▽28年度収入支出決算
 - ▼議決事項
▽29年度事業計画▽29年度会費の賦課及び納額▽29年度収入支出予算▽役員の選任
- また、新理事の選任後、理事会が開かれ、会長に田表一夫氏（再任・久慈市国保運営協議会長）、副会長に村田芳三氏（再任・盛岡市国保運営協議会長）と白井悦男氏（新任・遠野市国保運営協議会長）を決定した。（新役員は、左上表を参照）

国保をめぐる諸情勢



講演した国保中央会
飯山幸雄 常務理事

総会後に行われた研修会では、国保中央会の飯山幸雄常務理事から「国保をめぐる諸情勢について」と題し講演が行われた。

飯山常務理事は、市町村国保の状況に触れ、平成27年度速報値による財政状況を示したほか、社会保障費の推移や医療費の動向なども詳しく解説した。

また、保険者におけるインセンティブの見直しについても解説し、予防・健康づくりの取り組み強化、保険者努



多年にわたる国保事業への功績を称え表彰式が行われた

被表彰者のみなさん

国保運営協議会会長として永年功績のあった方々

国保運営協議会委員として永年功績のあった方々

花巻市	江川	久慈市	新淵	陸前高田市	山田	二戸市	小林	矢野町	小野	紫波町	関	平泉町	石川	箱石	久保田	洋野町	山田町
金ケ崎町	小関	金ケ崎町	新喜	金ケ崎町	小関	金ケ崎町	新喜	金ケ崎町	小関	金ケ崎町	新喜	金ケ崎町	小関	金ケ崎町	新喜	金ケ崎町	小関

受賞おめでとうございます

力支援制度の状況などを講演した。

講演後は多数の質問が寄せられ、飯山常務理事は限られた時間ではあったが、一問ずつ分かりやすく回答し、質問者の疑問を解いた。

引き続き住民の健康づくりを支援

地域づくりによる介護予防を体験学習

第15回岩手県在宅保健活動者連絡協議会「総会・研修会」



岩手県在宅保健活動者連絡協議会
阿部恵美子 会長

岩手県在宅保健活動者連絡協議会は5月18日、国保会館で第15回総会及び研修会を開催した。

冒頭、あいさつした阿部恵美子会長は「在宅専門職の役割が一億総活躍社会の実現に向け期待されていると感じている。会員相互に十分話し合い活動していこう」と呼び掛けた。

続いて、本会の村田保夫保健介護課長は「第2次健康ステップアップ運動の一環として、特定健診受診率の向上等の事業に協力をいただいている。今後地域住民の健康づくりの推進に一層の協力をお願いしたい」とあいさつした。

29年度事業計画を決定

次に、総会は久慈地区・久慈市の佐々木容子さんを議長に選出し、協議が行われた。



28年度事業報告や29年度事業計画を協議した

28年度事業報告では、第2次健康ステップアップ運動に係る保険者支援事業として、メタボ予防講座やイベントにおける歯周病予防健康教育及び特定健診受診率向上への支援を行ったことなどが報告され、満場一致で承認された。

また、29年度事業計画では、住民の健康づくりを支援する基本方針が示され、具体的実施事項として▽総会・研

「通いの場」介護予防に効果あり



花巻市長寿福祉課
晴山弥子 理学療法士

研修会では、花巻市長寿福祉課の晴山弥子理学療法士が「地域づくりによる介護予防推進事業と元気でまっせ体操について」と題し実技を交えて講演した。

まず、花巻市における介護予防事業の課題を示し、課題解決に向け模索する中で、26年度に介護予防に効果のある運動を行う住民主体の「通いの場」の立ち上げを目的とする国のモデル事業に取り組んだことを説明した。

晴山理学療法士は事業の実施に向け、住民が介護予防の重要性を理解し、自発的な取り組みを促すため、事業に取り組む背景や目的(花巻市の高齢化率や介護保険料の増え方等)をわかりやすく

説明したことや、動画を用いながら体操の効果を伝え、参加者に各地域での取り組みを呼び掛けた。

この中で、晴山理学療法士は「運動機能の向上に加え、人との交流を通じ『楽しいと思うことが増えた』『会話が增えた』などの感想も寄せられ、心理面への影響も認められた」と述べ、「通いの場」の効果を訴えた。

このほか、地域のコミュニティを壊さず実施できるため、一人暮らし高齢者の見守り体制や住民相互の生活支援などへの波及効果もあることが報告された。

参加者は花巻市の取り組みから、日頃の介護予防活動の課題を解消するヒントを得て、今後それぞれの地域の活動に生かそうと意欲を示していた。

修会・役員会の開催▽国保連合会保健事業への協力▽市町村等の保健事業への協力▽岩手県事業への協力(地域づくりアドバイザーの派遣等)▽「会報ひまわり」の発行―などの事業内容を決定した。

「通いの場」は、当初3か所だったのが、平成29年5月現在、市内83か所に増えている



平成28年度高点数レセプトの請求状況

高点数レセプト10年間で倍増 最高額は1ヶ月1800万円

本会はこのほど、審査専門部会及び特別審査状況の推移をまとめた。それによると、本会で受け付けた10万点以上40万点未満の医科レセプトは、前年比1.9%増（347件増）の1万8815件に達し、平成18年度から10年間で約2倍に増加した。また、請求金額が1千万円以上の超高額レセプトは8件となっており、28年度に請求された最高額の医科レセプトは、傷病名が「後天性血友病」で1ヶ月1797万円に上った。

表1 診療科別件数の年度別推移（単位：件）

診療科	年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	構成率(%)	前年度対比	前年度増減
合計		18,040	18,468	18,815	100.0%	101.9%	347
内科		4,649	4,759	5,070	26.9%	106.5%	311
呼吸器科		1,088	1,206	1,253	6.7%	103.9%	47
消化器科		866	760	800	4.3%	105.3%	40
循環器科		609	620	659	3.5%	106.3%	39
外科		3,263	3,307	3,293	17.5%	99.6%	△14
心臓血管外科		1,979	2,203	2,261	12.0%	102.6%	58
整形外科		3,115	3,064	2,929	15.6%	95.6%	△135
脳神経外科		858	893	868	4.6%	97.2%	△25
泌尿器科		947	1,014	962	5.1%	94.9%	△52
小児科		77	39	47	0.2%	120.5%	8
婦人科		279	248	238	1.3%	96.0%	△10
眼科		62	50	46	0.2%	92.0%	△4
耳鼻科		145	161	141	0.7%	87.6%	△20
皮膚科		75	85	87	0.5%	102.4%	2
放射線科		17	45	44	0.2%	97.8%	△1
麻酔科		0	0	4	0.0%	—	4
精神科		11	14	113	0.6%	807.1%	99

本会の審査専門部会が28年度（28年4月～29年3月審査分）の国保（一般・退職・後期高齢者医療を対象に、医科10万点以上40万点未満（心・脈管に係る手術を含む診療分は70万点未満）のレセプトを審査・決定した。

審査専門部会の診療科別審査件数（表1）は、前年度と比べて1.9%増加（347件増）し、1万8815件となっており、審査対象件数は年々増加傾向にある。また、平成18年度からの10年間で約2倍に増加した。

診療科別では、28年度は「内科」が5070件と全体の26.9%を占めて最も多く、次いで「外科」（17.5%）、「整形外科」（15.6%）の順となっている。続いて、審査件数を診療科別・点数階

表2 診療科別件数の点数階級別推移（単位：件）

診療科	年度	平成 26年度			平成 27年度			平成 28年度			前年度対比		
		10-15 万点未満	15-20 万点未満	20万点 以上	10-15 万点未満	15-20 万点未満	20万点 以上	10-15 万点未満	15-20 万点未満	20万点 以上	10-15 万点未満	15-20 万点未満	20万点 以上
合計		12,017	3,548	2,475	12,488	3,537	2,443	12,867	3,470	2,478	103.0%	98.1%	101.4%
内科		3,795	468	386	3,913	509	337	4,282	481	307	109.4%	94.5%	91.1%
呼吸器科		1,004	57	27	1,144	46	16	1,177	55	21	102.9%	119.6%	131.3%
消化器科		719	105	42	596	114	50	666	91	43	111.7%	79.8%	86.0%
循環器科		411	106	92	370	126	124	380	120	159	102.7%	95.2%	128.2%
外科		1,797	991	475	1,891	956	460	1,882	944	467	99.5%	98.7%	101.5%
心臓血管外科		752	546	681	855	607	741	858	606	797	100.4%	99.8%	107.6%
整形外科		1,806	910	399	1,900	796	368	1,870	756	303	98.4%	95.0%	82.3%
脳神経外科		433	152	273	476	160	257	364	203	301	76.5%	126.9%	117.1%
泌尿器科		777	125	45	829	141	44	796	132	34	96.0%	93.6%	77.3%
小児科		51	7	19	22	9	8	31	7	9	140.9%	77.8%	112.5%
婦人科		225	43	11	202	39	7	196	39	3	97.0%	100.0%	42.9%
眼科		53	7	2	48	1	1	42	2	2	87.5%	200.0%	200.0%
耳鼻科		103	24	18	117	18	26	98	15	28	83.8%	83.3%	107.7%
皮膚科		65	6	4	71	12	2	73	11	3	102.8%	91.7%	150.0%
放射線科		16	1	0	42	3	0	37	7	0	88.1%	233.3%	—
麻酔科		0	0	0	0	0	0	4	0	0	—	—	—
精神科		10	0	1	12	0	2	111	1	1	925.0%	—	50.0%

級別（表2）にみると、28年度は前年度と比べて「10～15万点未満」「20万点以上」の階級で増えているが、「15～20万点未満」の階級では減っている。

診療科別では、28年度は「精神科」が「10～15万点未満」の階級で92.5%増と大きく増えており、本会事務局では「審査基準の変更によるもの」と説明している。また、「整形外科」「泌尿器科」が各階級で前年度より減っている。

次に、点数階級別査定件数（表3）にみると、28年度は「10～15万点未満」が1184件と半数以上を占めており、査定率は点数階級が高くなるに伴って高くなる傾向にある。

また、審査対象レセプトの審査決定件数（表4）を年度別にみると、28年度に請

表3 点数階級別査定件数の年度別推移 (単位: 件)

年度 点数	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	構成率(%)	査定率(%)	前年度増減
合計	2,262	2,379	2,137	100%	11.4%	△ 242
10－15万点未満	1,258	1,300	1,184	55.4%	9.2%	△ 116
15－20万点未満	523	574	485	22.7%	14.0%	△ 89
20－25万点未満	222	237	195	9.1%	16.5%	△ 42
25－30万点未満	110	84	94	4.4%	19.5%	10
30－35万点未満	48	57	47	2.2%	16.0%	△ 10
35－40万点未満	41	40	35	1.6%	21.6%	△ 5
40－45万点未満	14	14	18	0.8%	22.5%	4
45万点以上	46	73	79	3.7%	27.8%	6

表4 審査決定件数の年度別推移

年度 審査状況		平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
審査対象	医療機関数	589	597	601
	審査件数	18,040	18,468	18,815
審査結果	決定件数	15,353	15,657	16,229
	決定率(%)	85.1%	84.8%	86.3%
	返戻件数	425	432	449
	返戻率(%)	2.4%	2.3%	2.4%
	査定件数	2,262	2,379	2,137
	査定率(%)	12.5%	12.9%	11.4%
	請求点数	2,727,996,125	2,791,855,729	2,853,736,348
	査定点数	4,911,508	5,661,759	5,664,461
	査定率(%)	0.18%	0.20%	0.20%

表6 特別審査における高点数レセプトの状況 (上位5位と歯科分)

順位	項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度
1位	主傷病名	急性肝不全	C型肝炎	後天性血友病
	診療科	-	-	血液内科
	診療月(実日数)	H26.1(30日)	H26.12(31日)	H28.8(18日)
	生年・性別	S25.12 男	S44.8 男	S12.9 男
	請求点数	1,912,834	2,006,229	1,797,831
	決定件数(査定)	1,624,526(△288,308)	1,250,561(△755,668)	1,797,831(-)
2位	主傷病名	破裂性胸部大動脈瘤	C型肝炎	血友病関節炎
	診療科	-	-	整形外科
	診療月(実日数)	H26.9(21日)	H26.11(30日)	H28.9(25日)
	生年・性別	S20.12 男	S44.8 男	S37.1 男
	請求点数	1,471,397	1,982,198	1,384,599
	決定件数(査定)	1,357,295(△114,102)	1,381,058(△601,140)	1,384,599(-)
3位	主傷病名	肝硬変症	C型肝炎	急性大動脈解離
	診療科	-	-	心臓血管外科
	診療月(実日数)	H24.12(22日)	H26.9(30日)	H28.4(21日)
	生年・性別	S22.10 女	S44.8 男	S15.4 女
	請求点数	1,414,955	1,906,077	1,380,034
	決定件数(査定)	1,205,052(△209,903)	1,479,566(△426,511)	1,238,712(△142,322)
4位	主傷病名	原発性胆汁性肝硬変	第Ⅲ因子インヒビタ陽性先天性血友病	B型肝炎、B型劇症肝炎
	診療科	-	-	外科
	診療月(実日数)	H26.2(28日)	H27.6(9日)	H27.11(30日)
	生年・性別	S28.2 女	S7.9 男	S27.10 男
	請求点数	1,409,639	1,586,238	1,335,405
	決定件数(査定)	956,653(△452,986)	1,586,238(-)	1,236,909(△98,496)
5位	主傷病名	血友病B	大動脈弁狭窄症	非代謝性肝硬変(生体肝移植)
	診療科	-	-	外科
	診療月(実日数)	H26.7(2日)	H27.4(28日)	H28.10(20日)
	生年・性別	S37.1 男	T10.9 女	S47.10 男
	請求点数	1,268,828	1,368,777	1,108,699
	決定件数(査定)	1,268,828(-)	839,191(△531,586)	1,034,553(△74,146)
歯科	主傷病名	下顎骨悪性腫瘍	-	下顎骨肉腫
	診療科	歯科	-	歯科
	診療月(実日数)	H26.3(31日)	-	H28.4(30日)
	生年・性別	S3.3 女	-	S23.9 男
	請求点数	347,363	-	328,363
	決定件数(査定)	346,945(△418)	-	290,789(△37,574)

求どおり決定した件数は1万6229件で、決定率は86・3％と前年度に比べて高くなっている。次に、返戻の状況を見ると、28年度の返戻件数は449件となり、返戻率は2・4％と前年度と比べて若干高くなっている。また、査定の状況を見ると、28年度の査定件数は2137件となり、件数による査定率は11・4％と前年度と比べて減少したが、請求件数に占める査定点数の査定率は前年度と同様に0・20％となっている。

特別審査の状況

国保中央会で審査する特別審査は、

医科40万点以上(心・脈管に係る手術を含む診療分は70万点以上)、歯科20万点以上、漢方4千点以上の特別高額レセプトとなっている。

本県の特別審査の受付件数を点数階級別(医科分)(表5)にみると、28年度は「40～50万点未満」が102件と最も多く、全体の50％を占めている。また、「100万点以上」の超高額レセプトは前年度から8件減の8件となっている。

次に、高点数レセプト(請求点数)の状況(表6)をみると、28年度に請求された最高額の医科レセプトは、傷病名が「後天性血友病」で、1ヵ月1797万円の

請求金額であった。

また、歯科で最も高額となったレセプト(請求点数)は、傷病名が「下顎骨肉癌」で、1ヵ月328万円の請求金額であった。

28年度の高点数レセプトのうち、「血友病」に関係するレセプトが上位を占めたことについて、本会の松本紀子審査事務監は「血友病の場合、血液凝固剤などの高額な薬剤が投与されると巨額な請求につながる」と説明し、「近年は、高齢化に伴う合併症治療の増加や、高額な医薬品・医療機器の使用が増えている」と分析している。

表5 特別審査における点数階級別件数の年度別推移 (単位: 件)

年度 点数	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	構成率(%)	前年度対比	前年度増減
合計	211	226	204	100.0%	90.3%	△ 22
40～50万点未満	94	116	102	50.0%	87.9%	△ 14
50～60万点未満	38	29	35	17.2%	120.7%	6
60～70万点未満	12	15	8	3.9%	53.3%	△ 7
70～80万点未満	24	30	25	12.3%	83.3%	△ 5
80～90万点未満	19	14	21	10.3%	150.0%	7
90～100万点未満	5	6	5	2.5%	83.3%	△ 1
100万点以上	19	16	8	3.9%	50.0%	△ 8

保険者努力支援制度と密接に関連 新・国保3%推進運動の充実を目指し

岩手県国保事業充実強化推進協議会は、国保財政の安定運営と被保険者が健康で暮らせる社会づくりを目指し、国保事業充実強化推進運動（新・国保3%推進運動）を展開している。同協議会は6月5日、国保会館で幹事会を開催し、各関係機関を代表する幹事10人が出席。会議では、新・国保3%推進運動の目標に掲げる収納率向上、医療費適正化、保健事業等の取り組みについて、28年度事業実施状況や29年度事業計画を協議した。その後、国保地区協議会事務局長会議が行われた。



あいざつする国保連合会
菅原和彦 専務理事



あいざつする岩手県健康国保課
鎌田伸二 国保担当課長

会議の冒頭、本会の菅原和彦専務理事

事は「30年度からの国保制度改革に向けて、本会では可能な限りの支援を行っていく」と述べ、「本日は新・国保3%推進運動における各対策について議論を深めたい」とあいさつした。

続けて、あいさつした岩手県健康国保課の鎌田伸二国保担当課長は、30年度からの保険者努力支援制度における28年度前倒し実施分の結果に触れ、「特に糖尿病性腎症の重症化予防が全国平均を下回っており、岩手県では29年度に医師会と協力し、予防プログラムを策定予定である」と話し、「新・国保3%推進運動は、保険者努力支援制度と重複する部分が多く、一層の取り組みの

推進をお願いする」と述べた。

目標達成に向け事業展開

28年度の事業状況報告では、本会が実施した主な収納率向上対策として、国保担当職員、税務・収納担当職員合同研修会を開催し、東京都東村山市の

島村昭弘納税課長を講師に迎え、税務に対する心構えや使命、滞納整理や組織の在り方について、知識の習得に努めたほか、収納率向上アドバイザーを本会に設置し、市町村の先駆的な事例を紹介するなど、意見交換会を実施したことを報告した。

また、医療費適正化対策では、盛岡地区協議会が開催したレセプト点検事

務研修会に本会職員を派遣し、点検事務の留意点について研修を行ったほか、第三者行為求償事務による保険者支援、医療費通知書や後発医薬品差額通知書の作成など、適正化事業の推進について説明した。

さらに、保健事業対策では、保険者が行う健康教室等への支援や糖尿病重症化予防事業に係る対象者抽出などの操作技術について理解を深めるため、KDBシステム操作研修会の開催などを報告した。

このほか、各地区協議会からは、収納率向上に向けた滞納者への給与差し押さえや重複受診者に対する訪問指導など、活発に展開された28年度事業の報告が行われた。

さらなる取り組みを推進

29年度事業計画では、同推進運動が保険者努力支援制度における交付金の配分に直接つながるため、一層の取り



新・国保3%推進運動の充実に向けて協議が行われた

組み強化に向けて、収納率向上対策では収納率向上アドバイザーへの支援要望アンケートを実施した上で、積極的に市町村を支援していく方針を確認した。

また、医療費適正化対策では、第三者行為求償について29年度から自賠責限度額超過事案の加害者直接請求を実施しており、30年度はさらに受託範囲を拡大して取り組みを強化することなどを説明した。

さらに、保健事業対策では、第2期データヘルス計画の策定年度であることから、研修会の開催を含め、引き続き計画策定支援に努めていくなど、さらなる取り組みを推進する29年度事業計画を決定した。

新国保制度の円滑な実施に向けて

本県の要望事項を検討

国保地区協議会事務局長会議

新制度対応を意見交換

事務局長会議の協議に先立ち、新国保制度への対応について岩手県との意見交換が行われた。

冒頭、岩手県健康国保課の鎌田国保担当課長は、国保制度改革に係る29年度のスケジュールと30年度から市町村が県に納付する国保事業費納付金に関する説明を行った。

その後、出席者からは「今回の試算



国保制度の改善強化に向け、要望事項などを協議した

によると、沿岸市町村の標準保険料率が高い状況だが、今後どのようになるのか」といった質問や財政見通しに関する意見などが出され、鎌田課長は「試算では新制度移行に伴う国の財政支援を反映していない」と説明し、今後、国から示される公費に関する考え方などをもとに、引き続き、市町村と協議していくと回答した。

フォーラムは超高齢社会対策

続いて行われた協議では、各国保地区協議会から28年度に実施した特徴ある各種事業が報告された。また、29年度事業計画では、保健師や栄養士、国保運営委員の研修など、今後も積極的に地区協活動を推進していくとした。

次に、国保制度改善強化全国大会における決議事項について、県内市町村の要望を反映させるため、東北地方国保協議会に提出する議題を協議した。

初めに28年度の要望結果について、事務局から国の29年度予算措置等の概要説明があり、その後、本年度に東北地方国保協議会へ提出予定の要望事項7項目の素案を協議した。事務局では、

同会議の協議を踏まえ、各市町村から意見集約した要望事項を本会役員会に諮り、7月中旬に東北地方国保協議会に提出すると説明した。

続いて、岩手県国民健康保険フォーラムの実施要項が協議され、8月24日（木）午後1時から盛岡市「アイーナ」で開催。テーマは「超高齢社会を乗り切るために」とし、地域包括ケアに関する基調講演のほか、パネルディスカッションなどを行うことを確認した。

30年度から費用負担を検討

このほか、現在本会が検討している30年度からの新たな費用負担（素案）を説明した。

検討中の費用負担は①第三者行為求償事務②国保データベース(KDB)システム③の2点で、会議では費用負担を求めるに至った経緯や負担金額の素案などを提示した。

①は、国保事業の健全な運営を確保するため、現在国から一層の取り組み強化と適切な費用負担の設定が望まれており、本会では新たに29年4月から受託範囲を拡大し、加害者直接請求に係る事務を実施している。また、30年度からは、さらに個人賠償責任保険等に係る求償事故について受託範囲を拡大する予定であり、一層の保険者支援と医療費適正化に取り組む予定としている。

その上で、受託範囲の拡大には求償事務専門員を増員して対応する必要があるほか、事務局では「現在、43都府県

岩手県国民健康保険フォーラム	
1. 開催日時	平成29年8月24日(木) 午後1時から午後4時
2. 会場	盛岡市アイーナ7階 小田島組ホール
3. 日程	下表のとおり
時間	内容
12:00	受付
13:00	開会 主催者あいさつ・来賓祝辞 表彰
13:30	基調講演 福井大学医学部地域プライマリケア講座 講師 福井県高浜町国民健康保険和田診療所 井階 友貴 氏
14:30	休憩
14:40	パネルディスカッション テーマ「超高齢社会を乗り切るために」 司会者 岩手県立大学総合政策学部 准教授 桑田 但馬 氏 助言者 福井大学医学部地域プライマリケア講座 講師 福井県高浜町国民健康保険和田診療所 井階 友貴 氏 意見発表者 久慈市長 遠藤 謙一 氏 陸前高田市国民健康保険二又診療所 所長 石木 幹人 氏 山田町長寿福祉課 介護予防支援係長 佐々木裕子 氏
16:00	閉会

で費用負担を設定している状況を市町村に入れ、今後、費用負担の内容を市町村に説明し、理解を求めたい」とした。

②は、国保総合システムと連動したシステムであり、現在、国保の共同事業の一翼を担うシステムとして定着している。本県では25年度からシステムの運用を開始したが、当初、不具合が多発していたことから、事務局では「この間、システム運用の負担を求めずに一般会計で負担してきた」と説明した。

その後、一般会計における厳しい財政状況を示した上で、本来負担いただくべき特別会計で予算計上したい旨を説明し、費用負担に対する理解を求めた。なお、現在のシステムは不具合が解消されつつあり、保健事業を支えるツールとして大きな役割を果たすことが期待されている。

これら2点の費用負担（素案）については、今後本会主催の会議等で説明していくほか、事務局では「国保地区協議会の会議の中でも説明させていただきたい」と依頼した。

30年度に向けた電算処理の準備進む

本会は6月6日、国保会館で平成29年度第1回電算処理システム運営協議会を開催した。

各国保地区協議会から選出されている委員7人が参加した会議では、▽保険者事務共同電算処理業務▽次期国保総合システム▽国保情報集約システムなどの情報提供が行われたほか、電算業務の充実に向け課題を協議した。

なかでも、30年度の保険者事務共同電算処理業務については、一般業務は次期システムで統廃合されるものを除き、現行と同様に提供していく予定であることが説明された。

また、国の特別調整交付金（結核・精神に係る申請データ）の提供については、特別業務とする案が示された。出席者からは「申請書の作成に労力を費やしている」などの意見が出され、事務局は「レセプト管理システムへの情報の付加や、判定条件の精度向上など、軽減を図れるよう検討していきたい」と応じた。

このほか、次期国保総合システムの移行に伴う変更点や30年度の新国保制度移行後の高額療養費該当回数通算対応に関する調査結果が示され、事務局は「県と市町村の協議が進められていく中で、本会でも引き続き積極的に協力していく」とした。

平成29年度第1回電算処理システム運営協議会



第三者行為介護求償のノウハウを研修

本会は6月8日、国保会館で第三者行為求償事務（介護保険担当者）研修会を開催した。

市町村などの介護保険担当者約20人が出席した研修会では、本会の担当者が国から示された介護保険に係る第三者行為求償の取り組み強化や、費用負担の設定について説明した。

また、本会の菅沼章求償事務専門員は損害賠償請求権の概要などを解説し、介護保険に係る第三者行為求償のポイントとして「被保険者が第三者行為を原因として介護

第三者行為求償事務（介護保険担当者）研修会



給付を受けた場合、介護に伴う費用は、いったん介護保険で負担することになるが、これは本来加害者が支払うべき費用。介護保険で負担した費用は、あくまで立替払いしたものであり、加害者に対する求償事務が必要になる」と強調した。

今後、本会では、国が設置した国民健康保険第三者行為求償事務アドバイザーなどを講師に招き、医療保険担当者を対象とした第三者行為求償事務担当者研修会を7月19日に開催する。

7月の行事予定

4日	国保情報集約システムに係る市町村向け説明会	(国保会館)
8日	地域医療研究会「歯科部会」(～9日)	(一関市)
10日	国保連合会「役員会」	(国保会館)
12日	交通事故弁護士相談	(国保会館)
13日	東北地方国保運営協議会代表者連絡協議会(～14日)	(仙台市)
18日	再審査部会	(国保会館)
19日	柔整審査会	(国保会館)
	審査委員会(～24日)	(国保会館)
	第三者行為求償事務担当者研修会	(国保会館)
22日	市町村職員臨床・衛生検査技術者協会「幹事会・総会・研究会」	(国保会館)
26日	介護給付費等審査委員会	(国保会館)
28日	国保連合会「総会」	(国保会館)

保険者へのレセプト公開日は7月5日です

自分の家族を
振り返ってみて
もそうですが、
子どもを中心に
回っている家族が多くはない
でしょうか。特に、母親は「子
どものため、夫のため、家族
のため」という発想をしがち
で、この中に「自分のために」
が入っていないことがよくあ
るようです▼自分の欲求を満
たすことを心から認めている
人は多くないようで、中には、
いつも自分のことを後回しに
しているのに、そのことにす
ら気づいていない人が増えて
いるとか▼本来、自分の欲求
に後ろめたさを感じる必要は
なく、自分が欲求を覚えたと
きに、「罪悪感なしに満たし
て良いのだ」と自分で認める
ことで、他者が自分の欲求を
満たすことも「ずるい。身勝
手。ぜいたくだ」などと否定
しないですみ、温かい気持ち
で認めることができるよう
です。むしろ、このほうが、必
要なときには心から譲り合っ
たり、与えあったりできるよ
うになると思う今日この頃で
す。
(熊谷)

編集後記